

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和 7 年 5 月 1 日現在 江戸川区立二之江小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和 8 年度の目標	55.0%	55.0%
令和 7 年度の目標	50.0%	50.0%
令和 6 年度の結果	47.0%	38.0%
令和 5 年度の結果	47.0%	48.0%

令和 6 年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第 6 学年	59.1%	62.9%
第 5 学年	63.9%	63.3%
第 4 学年	65.0%	73.6%
第 3 学年	56.0%	71.0%

 ともに、生きる。 江戸川区	目標達成に向けた取組		
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	・校内研修、OJTの充実を図る。 ・特別支援学級との交流を通じた児童理解、配慮を要する児童への指導方法の情報交換を図る。 ・タブレット端末の効果的な活用を目指した研修の機会を設定、教員同士での情報交換を図る。 ・校内研究（国語科）を軸とした授業改善を推進する。	・低学年からの積み重ねを大切にし、当該学年の学習内容定着を徹底する。（わからないことをわからないままにしない。） ・東京ベーシックドリルの診断テストの年 3 回実施を通して、児童の学習状況を把握し、指導に生かす。（4・5 年）学習カルテを生かして、苦手な課題の復習を徹底する。 ・週に 1 回の朝の時間を活用した、「YOMUYOMUタイム」では、よむYOMUワークシートを中心に、読解力を高めるための活動を行う。	・各学期の家庭学習週間における家庭学習目標時間（学年×10+15分）の定着を図るために、各家庭に協力を呼びかける。 ・study week中にミライシードの活用をする。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	・若手、中堅、主任・主幹と職層に応じた研修をし、指導力向上を図る。 ・特別支援学級の児童への手立ての仕方、指導方法を学び、通常学級の指導に生かす。 ・ICT支援員の効果的な活用をする。 ・校内研究を通して、効果的な手立てを日頃の指導に生かす。	・CD層に対して、EDOスクと連携し、支援を行う。 ・ドリルパークを活用し、東京ベーシックドリルテストの結果を基に、苦手な問題練習に取り組む。 ・低学年において、教員を加配し、少人数算数を実施し、一人一人の学習状況を把握し、指導に生かす。 ・児童の実態に応じたよむYOMUワークシートの活用、指導をしていく。	・ドリルパークに家庭学習や長期休業中に課題に出す。 ・児童の特性に合った課題を出す。（毎日やり遂げた実感を得られるようにする。） ・ミライシードの進捗状況を確認し、賞賛・励ましをする。
成果指標	・全国学力調査「授業の内容がよく分かりますか」に対する肯定的な回答 70%以上	・東京ベーシックドリルの診断テスト7割達成者 60%以上	・保護者向け、学校評価において項目『あなたのお子さんは、「10分×学年+15分」の勉強に取り組んでいますか。』AB評価率 70%以上